

農業体験 × 錦江町観光

～大根が繋ぐ4か月～

対象地域 錦江町

チームdaikon

上馬場 優希

横山 太紀



錦江町の現状

①人口は年々減少傾向

20~39(若い働き手)の人口は特に少なく、
将来さらに減少する見込み

〈総人口〉

2020年：6,933人

2045年：3,192人

〈20~39歳の人口〉

2020年：733人

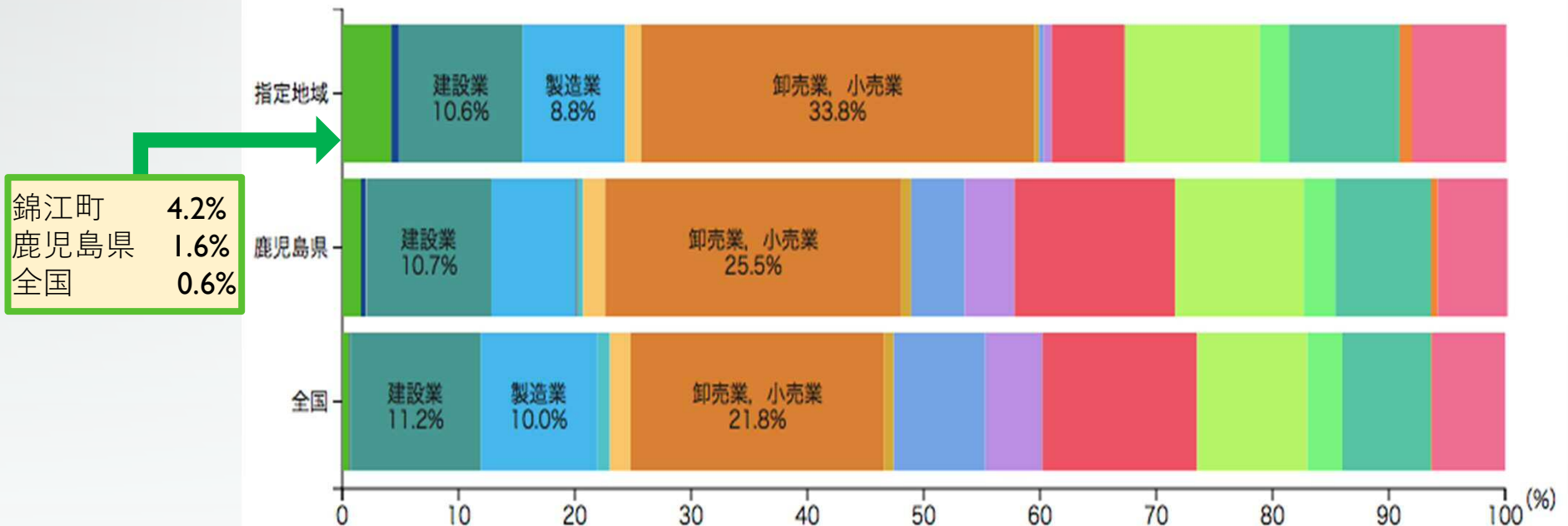
2045年：271人

(「RESAS」人口構成分析より)

企業数(企業単位) 2016年

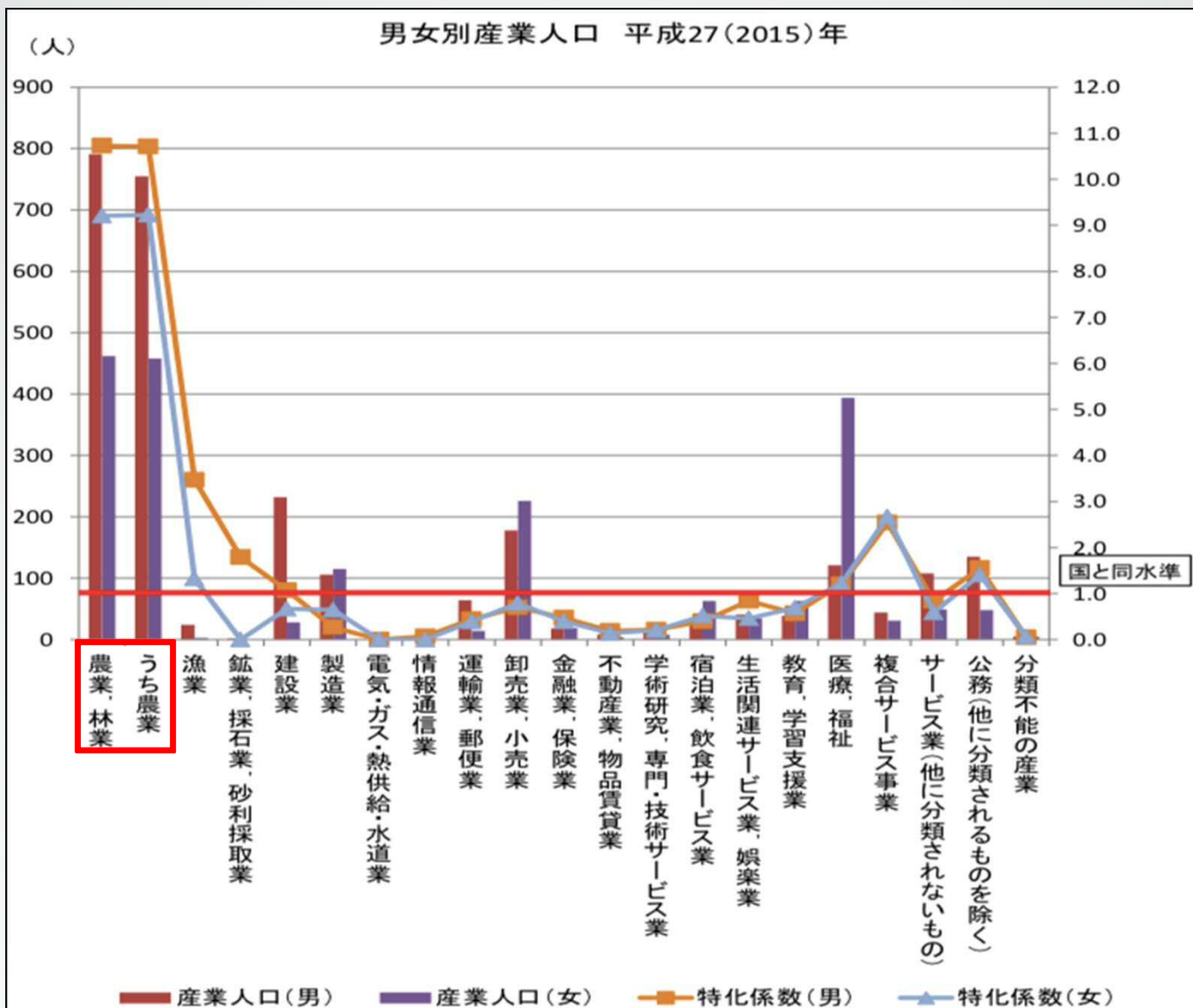
RESAS

指定地域：鹿児島県錦江町



②錦江町の企業数(企業単位)に注目すると、国・県と比較して、**農業(グラフ緑部分)**の割合が高くなっている

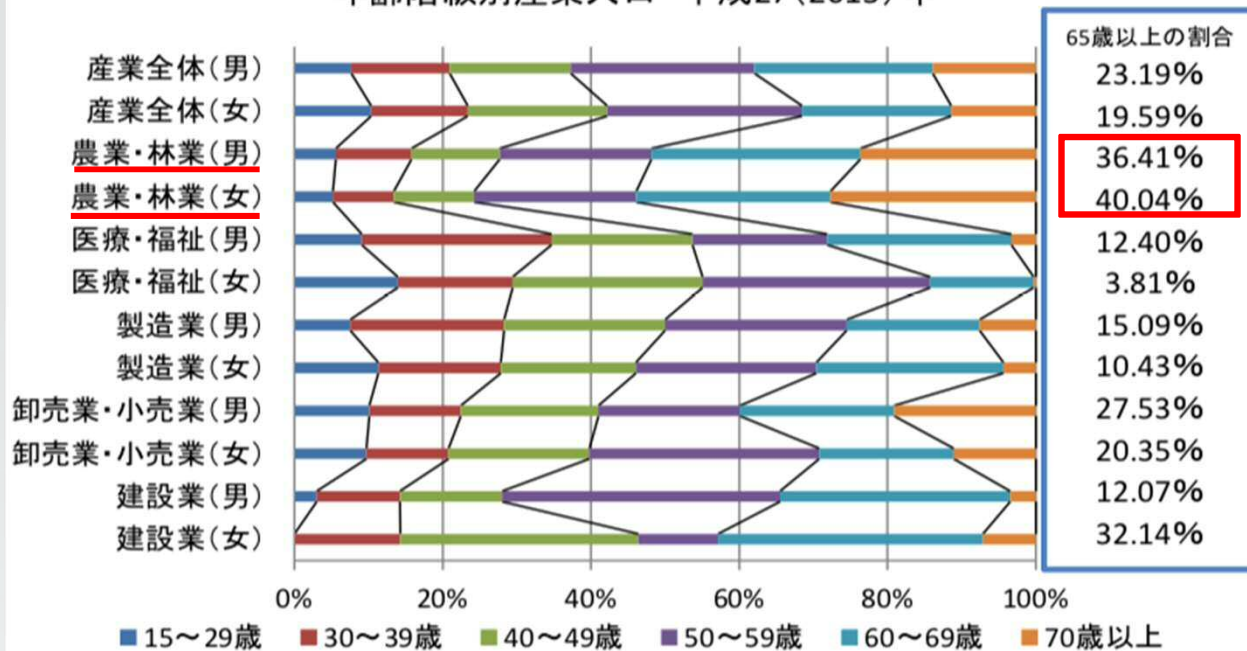
錦江町の現状



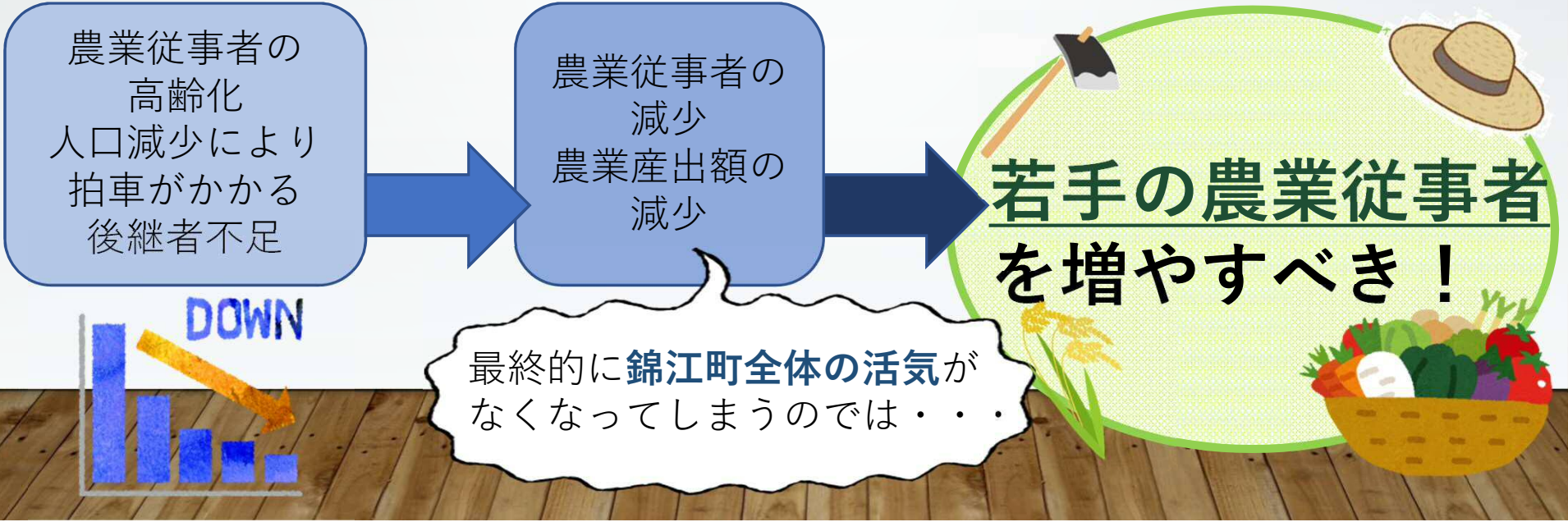
③産業別人口を見ると、農業・林業従事者が最も多く、**農業は錦江町の主要産業である**ことがわかる。
 (錦江町総合戦略(令和2年3月26日策定)より引用)

錦江町の課題

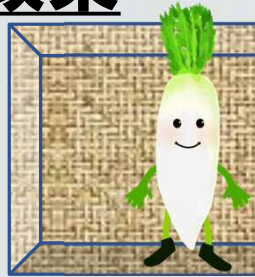
年齢階級別産業人口 平成27(2015)年



農業従事者の約4割は60歳以上の高齢者であり、農業の維持には、若い農業従事者の確保が必要不可欠



政策



農業体験 × 錦江町観光

～大根が繋ぐ4か月～



目的

小学生に錦江町で農業体験をしてもらい、将来農業に携わりたいと思えるようなきっかけづくりをする

対象

小学生（町内外）

大学生が
サポートに付く



内容

大根作りを中心とした農作業体験
 錦江町の観光、キャンプや川遊び等の自然体験
 上記取り組みを通じた錦江町の住民との交流
 最終目標は収穫した大根を使用した**大根やぐら**の製作！

大根の種まき～収穫の一連の流れを体験してもらうため、**8月**から**12月**の期間に、計**6回**に分けて開催する

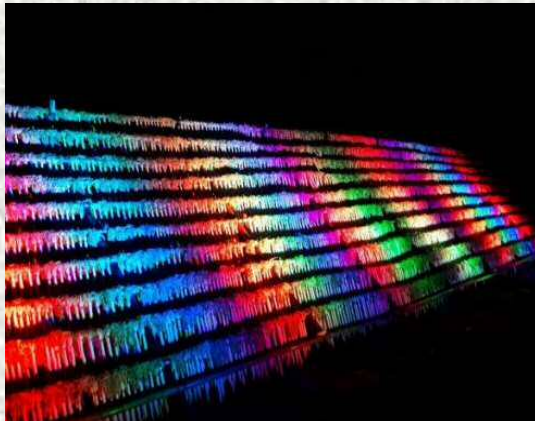
政策



なぜ**大根**？

- ・ 錦江町は加工用大根の生産が盛ん
- ・ 冬には「大根やぐらライトアップイベント」

錦江町の名物イベント「大根やぐら」



錦江町の冬の風物詩

大根を干してやぐらに吊るして**ライトアップ**

- ・ 錦江町の観光PR
- ・ 地域×学校×大学が連携し食農教育の経験ができる
- ・ 地域内での交流や人材育成の場になる



大根は商品に、観光に、地域の交流に大活躍
錦江町にはかかせない作物！

政策

第1回(8月、一泊二日)

錦江町について学ぶ
大根について学ぶ

花瀬自然公園でキャンプ
雄川の滝観光



第2回(9月、日帰り)

土壌作りと大根の種まき
作業

農家、地元の方々と協力
クラシックぶどう浜田農園
でぶどう狩り

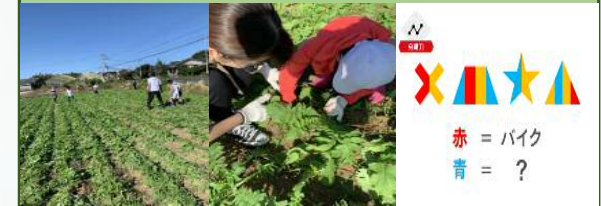


第3回(10月中旬、日帰り)

大根の間引き作業

謎解きゲーム

錦江町全域が舞台に
楽しく町歩き&思い出に
地域の方々との交流を図
る



第4回(11月中旬、日帰り)

大根の栽培管理

農家の方の畑仕事の手伝
いなども追加で行う
錦江町いきいき秋祭り



第5回(12月上旬、日帰り)

大根の収穫

大根やぐらづくり

収穫した大根を結ぶ→洗う
→干す

余った大根で地域の方々と
料理づくり



第6回(12月下旬、日帰り)

4ヶ月間の振り返り

大根やぐらライトアップ
イベント



農家の方々

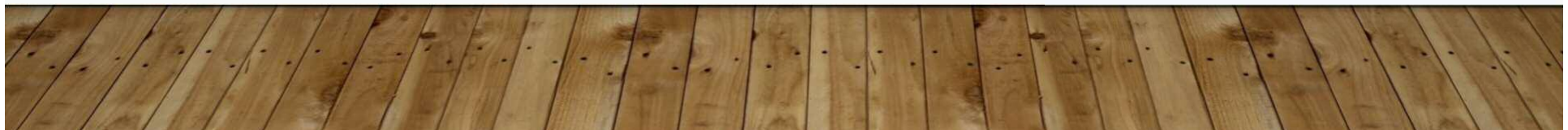
- ・ 農作地の提供
- ・ 大根の種まき～収穫の指導、大根やぐらづくりの手伝い
- ・ 観光地への同行・引率

錦江町の住民の方々

- ・ 活動のサポート（キャンプ、見守り、調理など）
- ・ 謎解きゲームの準備
- ・ 観光地への同行・引率、運送
- ・ ゲストハウスの提供

大学生

- ・ 活動の進行役
- ・ 小学生のバックアップ
- ・ 活動全体の連絡調整



メリット

参加学生(大学生含む)

種まき～収穫の
一連の流れを体験

- ・ 農業の楽しさ、達成感、大変さ、必要性を体感
- ・ 参加学生や政策に関わる地域の方々との関係性を構築
- ・ 錦江町の様々な場所へ行き、魅力を知れる

➡ 錦江町への愛着が湧く！

農家の方々・地域の方々

- ・ 農業後継者の解消につながる
- ・ 若者と関わることで元気や活力をもらえる
- ・ 住民同士の結束力の向上・地域の活性化

将来性

- ・ 政策のボランティアとして再び参加したり、自分の子供を参加させる
- ・ 友達や家族を連れて再び錦江町の観光に訪れる
- ・ 参加当時つながった地域の人々の様子を見に訪れるなどの定期的な往来の可能性

